

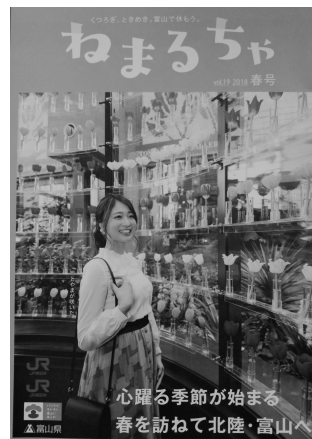
「薬都」を掲げるだけはある！ 全国的にもまれな 富山市の薬業振興予算と商工労働部薬業物産課の活動

発行：日本置き薬協会 事務局

富山市ではこのほど、平成 30 年度薬業関係当初予算の概要を発表した。商工労働部薬業物産課関係の新規事業として富山城址公園内の旧市立図書館跡地で予定している「くすり関連施設」整備に向け新たな基本構想と基本計画に策定に着手。また、冊子「富山の置き薬と日本の健康」の制作、「くすりのまちの休憩所（仮称）」整備に取り組み、富山のくすりの情報発信・広報活動を推進する。

「くすり関連施設」は平成 20 年度に基本構想、翌年度に基本計画を作り、富山城址公園内に施設を整備する方針を打ち出した。22、23 年度には売薬や製薬に関する資料の収集を行い、市立図書館の移転に伴い跡地に建設する方向で纏まったものの、北陸新幹線開業や市街地再開発など大型事業が続き停滞していた。

29 年度開催の準備会議で、北陸新幹線開業に対応した新たな富山市総合計画、中心市街地活性化計画が策定された事や、開業を契機として周辺環境も大きく変化している事等を踏まえ、先の基本計画や基本構想を練り直すとした。



今年 3 月 JP 77- KITTE で開催の富山くすりフェア

富山県の季刊観光情報誌「ねまるちゃ」

30 年度は、薬業関係団体・製薬企業等の薬業関係者、観光業関係者、有識者からなる委員会を立ち上げ、「くすり関連施設」のコンセプト、整備方針、目指すべき方向性を盛り込んだ基本構想を纏め、基本計画まで年度内に策定する。

「富山の置き薬と日本の健康」は A5 版オールカラーの冊子で、富山の配置薬業の歴史や記録と共に、50 名ほどの著名人にそれらに纏わるエッセイを依頼して掲載。市民等に郷土の歴史や文化に愛着を感じ、誇りを持って貰う事を目的としている。

「くすりのまち休憩所（仮称）」は、観光客をはじめ街なかを散策する高齢者等に「くすりの富山」を感じて貰うため、立川志の輔プロデュースの演芸ホール「てるてる亭」の一階部分を改装して整備し、「くすりの富山」の紹介パネル、富山へ「反魂丹」の処方伝えた万代浄閑の像等を設置する。

これらは、富山市に來られた方々へ「くすり」により街の魅力を伝えようとする、富山市ならではの観光施策である。本事業予算は前年度対比 360.2%増の 3200 万円が計上されており、今年 1 月に富山県が申請した「配置薬業にかかわる関連文化財に日本遺産への認定」の支援活動ともいえる。

伝統の「置き薬」を観光資源化し、「心の置き土産」とする施策が、配置薬の認識を広め、その回復の一助となることを願いたい。

本件に関するお問合せ先

日本置き薬協会 事務局

〒332-0034 埼玉県川口市並木 2-30-6 内外救急薬品内

Tel 080-5514-7511（有馬） fax 048-251-9657

日 置 協